

水無瀬離宮周辺（島本町域）の中世石造物

2025/3/23 @島本町ふれあいセンター

山川 均（博士／日本考古学）

1. 石仏と磨崖仏の違い

- 原則として動かせるものが石仏
- 動かすことができないものが磨崖仏

2. 彫り方による石仏の分類

- 丸彫り
 - 背中まで完全に彫り出されている石仏
- 厚肉彫り
 - 丸彫りに近いが、背中は作られていないもの
- 半肉彫り
 - 身体の前半分程度を浮き彫りとしたもの
- 薄肉彫り
 - 仏の図（二次元画像）を浮き彫りとして表現したもの
- 線刻
 - 仏の図（二次元画像）を線彫りで表現したもの

3. さまざまな仏

- 如来
 - 悟りを開き、真理に達した者
 - 粗末な衣（衲衣）を着し、装飾品は着けない
 - 阿弥陀・釈迦・薬師など
- 菩薩
 - 悟りを求めて修行中の者
 - 宝冠や腕輪（腕釧）などの装飾品を身に着ける
 - 観音・弥勒・地藏など
- 明王
 - 仏教に帰依しない者を調伏する
 - 憤怒形を取る
 - 不動・降三世・大威徳など
- 天部
 - インド神話の神々が仏教に取り入れられ、仏法を守護する者となった
 - 「六道」のうち「天部」に住む
 - 四天王・梵天・帝釈天など

4. 代表的な石仏の種類

- 阿弥陀如来
 - 無量寿如来とも呼ばれる
 - 四十八の本願で永遠の救いを垂れる
 - 極楽（西方浄土）の教主
 - 来世信仰の代表的存在
 - 阿弥陀三尊＝阿弥陀如来・観音菩薩・勢至菩薩
- 釈迦如来
 - 実在の人物で、仏教の開祖
 - 霊鷲山に住む
 - 久遠常住の仏として永久にこの世に留まる
- 薬師如来

- 大医王仏とも呼ばれる
- 衆生の病気を治し、寿命を延ばす
- 東方瑠璃光浄土の教主
- 現世利益信仰を集める
- 弥勒（菩薩・如来）
 - 慈氏菩薩とも呼ばれる
 - 五十六億七千万年後に下生する未来仏
 - 下生前の姿（菩薩形）と下生後の姿（如来形）がある
 - 兜率天に住み、説法教下中
 - 兜率上生を願う知識階級の信仰を集めた
- 地藏菩薩
 - 六道（俗世）で衆生を救済する仏
 - 閻魔の本地仏
 - 衆生に最も近い仏
 - 僧形に作られる

5. 島本町の中世石仏2体について

- 共通する特徴
 - 厚肉彫り
 - 台座上で結跏趺坐
 - 菩薩形
 - 総高 83 cm（二尺八寸）
 - 像高 54 cm（一尺八寸）
- 左方像
 - 面容を留める
 - 蓮華を持する
 - 台座に蓮弁が彫られている
- 右方像
 - 面容は風化
 - 宝冠はディテールを残す

- 合掌する
- 台座の蓮弁は不明瞭
- 両像の種別
 - 阿弥陀三尊の脇侍
 - 左方像＝観音菩薩
 - 右方像＝勢至菩薩
 - 中尊の阿弥陀如来像を欠く

6. 京都系厚肉彫り石仏について

- 京都（旧平安京とその周辺）には、光背から厚肉に彫り出された独特の石

仏様式が分布する（京都系厚肉彫り石仏）

- 光背に種子を巡らせる精巧なタイプ(A)
- 頭部を大きめに作り、脚部が貧弱なタイプ(B)
- 二重円光背とはしない素朴なタイプ(C)
- 舟形光背の写実的なタイプ(D)
- 二重円光背を作る、やや素朴なタイプ(E)
- 島本町所在の2体については、上記のうちEタイプが最も近い

7. 島本町伝小侍従墓五輪塔について

- 五輪塔とは
 - 地・水・火・風・空と5つの部材から成る石塔
 - 台座・基壇が加わることがある
 - 胎藏界大日如来を表す塔（三昧耶形）
 - 墓塔として作られることが多い
- 伝小侍従墓五輪塔
 - 待宵の小侍従（1202 没）
 - 当初部材は水輪のみ（他は新造）
 - 水輪（最大径：61.0 cm／上端：36.5 cm／下端：38.0 cm）

- 水輪は縦長（椎の実形）を呈する
- 京都系五輪塔
 - 京都（旧平安京とその周辺）の五輪塔には、水輪が椎の実形、もしくは下膨れになるものが多い
 - ☆ 大和や播磨では上半部、もしくは中心に最大径が来るのが普通
 - 椎の実形水輪＝来迎院五輪塔、神護寺文覚（1203 没）五輪塔、東向観音寺五輪塔など
 - 伝小侍従墓五輪塔は、京都系五輪塔に含まれる

8. まとめ 島本町所在石造物が語るもの

- 京都系厚肉彫石仏や京都系五輪塔（椎の実形水輪）が存在する
- 中世の島本町域は京都（旧平安京とその周辺）の石造文化圏に含まれていた
- 背景には水無瀬離宮の存在があった可能性が高い